

画家、秋野亥左牟 彼の絵は決して絵本には向いていなかった。

表面：絵本『プンクマインチャ』表紙絵(部分)、上：旅の絵巻物(部分) ※いずれもアキノイサムギャラリー蔵

この世界に生きる全ての命の輝きを大切に描いた画家、秋野亥左牟（あきのいさむ・1935-2011）。

彼はネパールをはじめ、アジアや欧米諸国で暮らしながら死ぬまで絵を描き続けました。

1968年、日本で1冊の絵本が出版されます。

秋野亥左牟が絵を描いた『プンクマインチャ』（文：大塚勇三・福音館書店）です。

ブラチスラヴァ国際絵本原画展（BIB）にて金牌を受賞したこの作品は、継母にいじめられる少女プンクマインチャと彼女を助ける不思議な生き物ドーン・チョーレチャの物語。

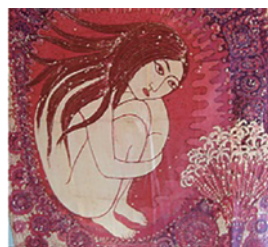
あまり見慣れない作風の原因は、日本を含めた世界各地で暮らしながら絵を描いた彼がプリミティブな芸術の迫力と内容の重さに圧倒され、憧れていたことにあります。

本展示会の会場は御殿山にある木々に囲まれたちいさなちいさな美術センター。

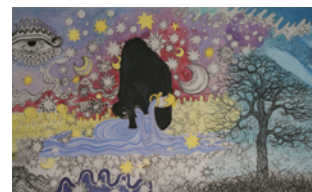
『プンクマインチャ』原画のほか、世界各地で描いた旅の絵巻物、ろうけつ染め、枚方市が所蔵する秋野亥左牟作品を展示いたします。

絵本原画では印刷では伝わりきれない大地を思い出させるような岩絵の具のきらめきや柔らかさを、旅の絵巻物では様々な画材で流れるように続けて描かれるイメージに込められた、常に変化する心と想いを、ろうけつ染めや版画では細かく描きこまれる優しい曲線や、まっすぐにこちらを見つめてくる目に人の身体をつけた「目人間」のパワーと楽しさを知っていただければ幸いです。

※光の反射が起りにくい特別な仕様で額装された作品も展示いたします。まるで何もないかのようにクリアに見ることが出来ますが、鑑賞の際は手を触れることがないように、くれぐれもご注意ください。



上：浮遊するいのち(部分)
下：旅の絵巻物(部分)
※いずれもアキノイサムギャラリー蔵



【関連イベント】

正置友子 -Tomoko Masaki-

秋野亥左牟と絵本
—地球を歩き
— <大自然と人間>の物語を描いた絵本作家

絵本学研究所主宰で作家と親交の深かった正置友子氏に秋野亥左牟と絵本原画の魅力についてお話し頂きます。

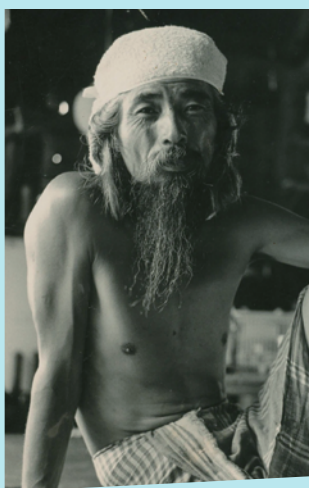
日時：2020年2月9日（日）
13：30～16：00

会場：御殿山生涯学習美術センター
2階 ホール

参加費：無料

定員：60名

申込方法：2020年1月5日（日）
窓口・電話にて受付（先着）



秋野 亥左牟 -Isamu Akino-

1935年京都生まれ。1962年よりインド、ネパールに6年滞在。ネパール滞在中に現地の民話から絵本『プンクマインチャ』（福音館書店）原画を制作。ロシア、ヨーロッパ、モロッコ、メキシコ、アメリカ、カナダなどを旅した後、日本にて暮らす。作品に『とうもろこしおばあさん』『石のししのものがたり』『はまうり』『おれは歌だ おれはここを歩く』『たこなんかじゃないよ』『たいようまでのぼったコンドル』（以上、福音館書店）『ムースの大だいこ』（架空社）。1992年日本で初めての個展（中村正義の美術館、小さな絵本美術館、剣淵絵本の館、枚方市民ギャラリー）を開催後、日本各地で個展、講演会を行う。2011年11月、自宅にて逝去。

「彼の絵は決して絵本には向いていなかった」その言葉の意味をあなたの目で確認してみてください。

京阪御殿山駅から徒歩8分

御殿山生涯学習美術センター

〒573-1182 枚方市御殿山町10-16

Tel：050-7102-3135 Fax：072-847-8351

<http://www.hira-manatsuna.jp/gotenyama/>

e-mail:info-gotenyama@hira-manatsuna.jp



※駐車スペースには限りがございます。出来るだけ公共の交通機関をご利用いただき、満車時は近隣の有料駐車場をご利用ください。
※特別警報・暴風警報発令等の気象条件、その他の理由により、開催を延期または中止する場合がございます。予めご了承ください。

